まだ支援者の決まっていない CMIP ハイスクール奨学生マリアメイ(小学校の卒業式で)

ビラーン通信 78号

2014 年 7 月 25 日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会
（英文名略称・ＨＡＮＤＳ）
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11
TEL & FAX:045-500-9151
E-mail: hands-mindanao@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/hands/
郵便振替口座　00210-5-72693
（加入者名）ビラーンの医療と自立を支える会

今が踏ん張りどころ、「マノボ・ティボリ民族ブラクール・アソシエーション/MTBCA」

６月中旬、スルタンクダラト州にあるブラクールを訪ねました。ゴムの木を植えた 2010 年のアグロフォレストリー事業以来です。ブラクール支援のパートナー、PFP (Partner for First Peoples) も、レイクセブ町のアグロフォレストリー指導に忙しく、しばらく顔を見せていなかったようです。マノボ民族の首長故ダトゥー・サルニ氏の妻ルモットさんは、住民集会で挨拶に立った時、ブラクールは見捨てられたのかと思ったと涙を見せました。

前PFP 事務局長ロニーさんとルモットさん。ロニーさんは小学校開設時に、SCM の教師として赴任。1994 年の住民組織 MTBCA 育成にも関わった

生徒が減って政府補助金が減少、教師の給与を払えないため、暫定的閉校を決めたハイスクールの件、あしながカレッジ奨学金も、閉校で進路指導ができなかったのか、初めて受給者ゼロだった等、昨年は、特に教育面で気がかりな事態が続きました。また、小学生の給食も資金難で、今年から中止したことも分かりました。

教師給与等、ブラクール校の運営を支えているのは、HANDS のブラクール支援会員(12 名)と、アメリカの教会グループです。給食の中止は、このピッツバーグの支援者の高齢化が進み、送金の減少がその理由でした。

住民組織が支援の受け皿となり、学校経営や収入向上事業を実施し、自立を目指すという先住民族自立の理想の形と思われたシナリオは、助言者 PFP の関与が減った今、筋書き通りに進まなくなった印象をうけます。しかし、それは、後退ではなく発展の一つの姿かもしれません。以前にもご紹介したブラクールの歴史とともに、現地訪問で見えたこと等を報告させていただきます。

＜歴史＞ブラクールに支援が入ったのは 30 年ほど前のことです。レイクセブ町の SCM(Santa Cruz Mission) の活動を聞いたダトゥー・サルニが、はるばるレイクセブを訪ねて支援を依頼し、1983 年に小学校、4 年後にハイスクールができました。1994 年、SCM が二つに分かれた後、元 SCM 農業スタッフ等からなる PFP の指導で、住民組織 MTBCA が結成され、アメリカや、日本の FOT（少数民族里親の会）の支援を受けて、教育や収入向上事業を実施しました。FOT 代表藤原氏が病に倒れられた 2002 年、HANDS は、会員 35 名とその学校運営や各種事業を引き継ぎました。

＜現地で見えたこと、そして、3 年後への期待＞

① ブラクール小を 3 月に卒業の 8 名全員が、4km ほど離れた麓のハイスクールに入学しました。電気が使えてパソコン教育もあります。長く先住民族の中等教育を担ったブラクールハイスクールの閉校は、マイナス面だけではなさそうです。

② 今年も卒業生への適切な指導がなく、あしなが奨学金応募はゼロでしたが、ルモットさんの孫は、先住民族奨学金（授業料限定）を受け、カレッジに進学しました。先住民族対象の公的奨学金拡充は嬉しいことで、私たちは、下宿代等不足分をあしなが奨学金で支援することにしました。

③ 帰途、５m ほどになったゴムの木とコーン、バナナが混作された 2010 年の受益者の畑を訪ねました。対象となった 35 世帯だけでなく、樹液採取の労務に雇用される住民を含めて、2、3 年後には大多数のブラクール住民の収入向上が実現しそうです。

④ 村発展のけん引役の教師が、ハイスクール閉校で半減したのは痛手ですが、MTBCA と連携しての小学校教師 4 名（うち 3 名は元あしなが奨学生）の指導力に期待大です。　（山﨑）